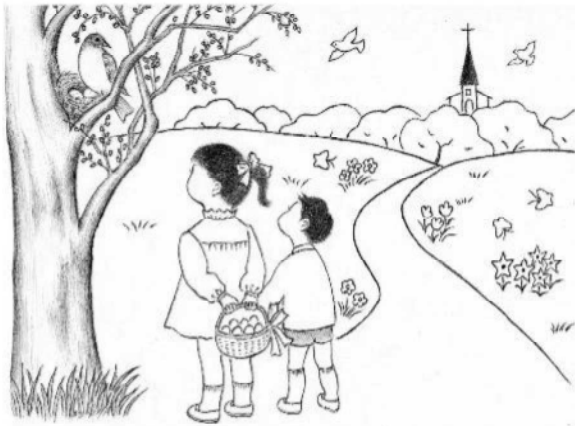




・復活主日

泉のほとり

今月の詩編「第二十一編」

御力を表される主をあがめよ

力ある御業をたたえて、

我らは賛美の歌を歌う。

わたしと共に樂園にいる

ユダヤ人指導者たちはイエスさまを捕らえ、ローマ総督ピラトに引き渡し、「この男はわが民を惑わしています。自分が王、メシアだと言っています」と訴えました。ピラトはイエスさまを取り調べますが、罪は何一つ見つからず「イエスを釈放する」と告げました。

その時、指導者たちは民衆を扇動し「その男を十字架につける」と大声で叫ばせると、圧倒されたピラトは十字架刑と判決を下しました。

ローマ兵たちはイエスさまに茨の冠をかぶせ、棒で叩きつけ、唾を吐きかけ、散々侮辱した挙句、二人の犯罪人と共にゴルゴダの丘へと引いて行きました。そこに着くと、兵士たちは二人の犯罪人とイエスさまを十字架にはりつけにしました。その時、イエスさまは「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか分からないのです」と祈られました。その祈りを無視するかのようになり、人々はくじを引き、イエスさまの服を剥ぎ取り、裸同然になっている姿を眺めていました。さらに「メシアなら自分を救ってみろ。十字架から降りてこい」と嘲りました。十字架につけられていた犯罪人の一人がさえ、「自分と我々を救ってみろ」と罵りました。誰も彼も神の御子に不当で、邪悪で、残酷なことを行い、悪口を浴びせていながらも、自分の悪しき姿を省みませんでした。神の前に大変な罪を犯しているのに気が付き、神を恐れ、罪を認める人は誰もいなかったのです。

その中でもう一人の犯罪人が「同じ刑罰を受けているのに、お前は神を恐れないのか。我々は自分のやったことの当然の報いを受けている。しかし、この方は何も悪いことをしていない」と言いました。彼は十字架の周りにいた人たちとは違い、強盗の罪を犯してきただけで、十字架を受けることが

当然ですと言っています。

報道番組を見ていると、罪や過ちを犯した人たちが、自分の罪を他の人の責任にし、言い訳や弁解をしている姿をよく見ます。反対に自分が犯したことを認め、報いを受けます、それが当たり前ですと言う人をほとんど見たことがありません。では、私たちはもし自分が明らかに悪いことをしてしまった時、どうするでしょうか。

一人の犯罪人は神さまを恐れ、言い訳も、弁解も何一つせず、自分の罪を素直に認めて、自分が受けるべき報いを素直に受けていました。自分の悪いところが見えている素直な彼の目には、罪はないのに十字架をお受けになっているイエスさまこそ神のメシア、救い主と見えていました。彼は「イエスよ、あなたが御国へ行かれるときには、私を思い出してください」と赦しを求めると、「あなたは今日、私と共に樂園にいる」と言われました。大きな罪を犯していても、受けるべき報いを受け、悔い改める彼に赦しをお与えくださいました。

イエス・キリストは悲惨な罪を犯し、悪しきことを行なったとしても、彼のように真実に悔い改め、救いを求める人に罪の赦しをお与えくださいます。私たちは一人の犯罪人のように、神さまを恐れ、自分の姿を見て、どれほど深い罪や過ちがあっても、それらを素直に認めていきたいと思えます。悔い改めるべきことを悔い改め、私が受けるべき報いがあれば受けていきたいと思えます。イエスさまはその人と共にいて、罪の赦しをお与えくださいます。これこそ私たちに与えられている福音です。

2023年度

教 会全体課題

日々聖書に聴き、

御言葉に従って歩む。

2023年度

心に刻む御言葉

生まれたばかりの乳飲み子のように、
混じりけのない霊の乳を慕い求めなさい。
これを飲んで成長し、救われるようになるためです。

(ペテロの手紙一 2章2節)

2023年年度

役 員会組織

報告が遅くなってしまいましたが、新年度役員会
は二〇二三年度の役員会組織を左記のように定
め、承認しました。

●運営委員会

書記 石川一
副書記 楠 浩介
財務 山下純一
副財務 神山宣紀

●礼拝伝道委員会

楠富士子
井手英利史
大友初枝
杉田博
三澤 茂夫

●教育奉仕委員会

三澤 えり子
日比野靖子
荒美 俊三
川越 啓子
上原 利之

《今日のお知らせ》

○今日は、イースターです。

○第二礼拝後、教会全体の特別なプログラムはありません。

○二〇二三年度の聖書通読表が出来ました。事務所のカウンターにありますので、是非ご活用ください。

《伝道カテゴリーより》

○本日礼拝後一二時三〇分〜一四時まで、礼拝堂で伝道カテゴリー奉仕者全体会を開催します。現在、伝道カテゴリーの奉仕に加わっていませんが、これから奉仕を考えておられる方がおられましたらどうぞご出席ください。はじめに讃美タイムもあります。

*なお、全体会前にロビー等で食事の際は黙食などをお勧めします。

公 告

下記により、四月教会総会を開催致します。
現住陪餐会員はご参加下さい。

2023年4月9日(日)

キリスト品川教会
代表役員 黄 允湜

日時 2023年4月23日(日) 礼拝後

場所 グローリア・チャペル・礼拝堂及びリモート

議題

1、2022年度教勢報告承認に関する件

2、2022年度諸会計補正予算及び決算報告、

財産目録に関する件

3、2022年度諸報告に関する件

議員資格満18才以上の現住陪餐会員。

(陪席) 義務教育終了後満18才未満の現住陪餐会員と不在会員、教会員でない附属幼稚園教諭は、教会総会に陪席することができます。(キリスト品川教会

教規 第3章第14条より)

《今後の予定》

○四月一日 附属幼稚園入園式

○四月一六日 定例役員会

○四月二三日 四月総会一回礼拝

○五月七日 ハイデルベルクの会

《次週の礼拝》

●第一礼拝(午前9時30分)

讃美歌 22番 461番

説教 「エマオへの道で」

聖書 ルカ24章13〜35節

説教者 宮間 彰広兄

●第二礼拝(午前11時)

讃美歌 146番 301番

説教 「信仰による祈り」

聖書 列王記上18章41〜46節

説教者 黄 允湜牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 II 131番 148番
説教 「主は復活なさった」
聖書 マルコ16章1～8節(新約P97)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師・菊池 美穂子 副牧師
説教者 菊池 美穂子 副牧師

前奏曲 「輝く朝我は歌う、主のみ名」 D.ワット

○ 讃美歌II 131番

1. いざうたえ、たからかに よろこびのほめうたを、
あたらしき代を告ぐる 主のよみがえりを。

※ 死のちからうちやぶり、とこしえに勝ちたもう
もろびとよ、よろこべや 主のよみがえりを
※ 繰り返し

2. いざうたえ、たからかに よろこびのほめうたを、
死の刺をくだきたる 主のよみがえりを。

※ かぎりなきいのちをば たからかに告げしめせ、
もろびとよ、よろこべや 主のよみがえりを。
※ 繰り返し

アーメン

○ 讃美歌148番

1. すくいぬしは ハレルヤ
よみがえりたもう ハレルヤ
かちどきあげて ハレルヤ
み名をたたえよ ハレルヤ。

2. 十字架をしのび ハレルヤ
死にて死にかち ハレルヤ
生きていのちを ハレルヤ
ひとにぞたまう ハレルヤ。

3. 主の死によりて ハレルヤ
すくいはなりぬ ハレルヤ
あまつつかいと ハレルヤ
ともにぞうたわん ハレルヤ。

アーメン

聖餐曲 「キリストはよみがえり」 J.S.バッハ

後奏曲 「マルチア」 C.M.グイトー

第二礼拝 (午前11時)

讃美歌 II 131番 153番
説教 「釘跡に、脇腹に手を入れなさい」
聖書 ヨハネ20章19～29節(新約P210)
司式 山下 純一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師・菊池 美穂子 副牧師
説教者 黄 允湜 牧師

前奏曲 「メサイア第50番 死よ、

勝はどこに なか刺はいずこにある

第51番 主に感謝せん、キリストによりて勝をたもう」

G.F.ヘンデル

○ 讃美歌II 131番

○ 讃美歌153番

聖餐曲 「キリストはよみがえり」 J.S.バッハ

後奏曲 「マルチア」 C.M.グイトー

※ 礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。